

平成28年度第3回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「地域課題の解決に向けた取組」
- 2 日 時：平成28年7月11日（月）
- 3 場 所：倉敷市芸文館 本館2階 201会議室（倉敷市中央1-18-1）
- 4 参加者：町内会活動、地域の安全確保や魅力づくりなど、地域の活性化に取り組んでいる方々：7名
- 5 知事挨拶

今日のテーマは地域課題の解決に向けた取組ということで、地域課題を行政だけですべて解決することは現実的に難しく、税金がいくらあっても足りない。皆様方のようにそれぞれの地域で自分たちで解決に取り組むということは、地域で暮らす人々も助かるし、活動に携わっている方々も元気になれると考えている。私は、各地域、各分野で頑張っている方々を是非応援したい。皆さんが、それぞれの地域において、その地域で抱えている課題を解決するためにどのような取組をしておられるのかを発表いただき、また、「県のこのような取組があつて助かっている、これはありがたかった」「ここをもっと改善してほしい」等の御提案があれば、是非伺いたい。

6 発言内容

【活動内容】

- ・岡山市中心部の廃校を利用して、来場者に学校の雰囲気や、アーティストの作品を楽しんでもらえるようなイベントを実施したり、公園でオープンカフェやマーケットを運営したりしている。
- ・コミュニティ協議会で活動している。学区内にある小学校の生徒数は28人と少なく、小学校と合同で地域の運動会を実施している。中心部の区画整理事業により、今後人口が増える見込みで、活動に当たっては後継者の確保が課題である。
- ・地元の古い街並みを、重要伝統的建造物保存地区に選定されることを目指して活動している。行政と協力しながら、街並みの保存と共に、植栽維持管理、防災活動にも取り組んでいる。
- ・市から地域子育て拠点事業を受託し、乳幼児とその保護者、妊婦が気軽に集える場所を提供したり、保育士や助産師が子育ての悩みに応じたりしている。
- ・自主防災活動として、自治会内の全世帯分の顔写真入りの名簿を作成したり、災害時取るべき行動を記した「災害避難カード」を作り、住民が災害時に活用できるようにしている。
- ・市民活動センターを作って、NPOの活動を支援や、地域の憩いの場として、子育て中のお母さんによるカフェを運営している。また、耕作放棄地などを利用した山菜づくりを行い、特産品とすることを目指している。高齢化率が高く、高齢者の移送や買い物が課題となっており、社団法人を新たに立ち上げ、高齢者を地域で支え合える体制を作ろうとしている。
- ・子どもへの読み聞かせを通じた、地域の交流活動を行っている。絵本を中心にみんなが集まる場所にできたらという思いで、学校近くの空き家を借りて「地域文庫」を作り、今年で2周年を迎えた。

【活動の中で得たこと、苦勞、課題など】

- ・特に20～30代の人にもっと活動に参加してほしい。また、イベントを行う地域に住む地元の人々が、私たちのイベント、活動についてどのように感じているのか、知りたい。
- ・昔は、地域のみんが協力して祭りを行うなど、周りに住んでいる人々の「顔」が見える関係があった。今、30～50代の働き盛りの人は仕事で忙しいので、60代以上の我々高齢者が頑張って地域を守っていかなければと感じている。
- ・かつては、地域でイベントを開催したりする際には、自治体の職員がサポートしてくれていたが、これからは、地域のことは地域でできるよう、後継者の育成を自分たちで進めていかなければならないと感じている。
- ・市の人口は増えてきているが、若い転入者が地元にもうまくなじめない場合もある。今は、子どもが下校時に地域の人と「お帰り」「ただいま」と声を掛け合う関係があるが、あと10年経てば、地域に住むおじいちゃんおばあちゃんに声を掛けてもらったことのない親や子どもが出てくるのではないかと危惧している。ボール遊び禁止の公園で自由に遊べない子どもたちは、どこへ行ったらよいのか。仕方なく家の中でゲームばかりしている子どもたちの環境を、地域のみんが考えなければならない。
- ・自治体の高齢化率は42%であるが、たくさんの経験を積み、技術を持った人生の先輩である元気な高齢者も多いため、極力それらの人たちに何らかの役を引き受けてもらっている。地域の人々が必ず一つずつは役を持つことにより、自分も地域活動に参加しているという意識と責任が生まれ、私自身も地域の仕事を抱え込まずにすんでいる。
- ・地域の人々がみんなでお金を出し合って、イベントの際の活動場所や駐車場として活用するための土地を購入した。地域の人々が地域自治に少しずつ関心を持ってきていることが、自分たちの活動の原動力となっている。
- ・人材確保について、文庫の活動に関わるスタッフは、それぞれ自分が活動できる時間、役割の中で、無理をせず参加できていることが、長く続けられる秘訣である。今後は、週末に親子が「(県南の)大型商業施設へ行こう」ではなく、「地域文庫に行こう」と言ってもらえるような、新たな仕掛けを考えるのが課題。

【県に対する要望、提案】

- ・岡山市内でアーティストの活動の場所がもっと作れたらよい。
- ・岡山市中心部のイベント会場の周辺に駐車場が少ないのがネックとなっている。空き地を臨時的に貸してもらえたらありがたい。
- ・自助、共助が大切で、自分たちでも防災組織を作っていかなければならないと考えているが、行政も我々の自主防災組織づくりを後押ししてほしい。
- ・子どもに、小さい頃から子育てや自分の生き方に関心をもってもらうために、「赤ちゃん登校日」として、乳児と保護者が小中学校に出向いて赤ちゃんとのふれあう機会を作っているが、授業の関係から、学校側の受入が十分ではない。できるだけ多くの小中高校で開催できるようになればありがたい。
- ・公民館の中には、利用目的が違う(学習ではない)ということで、子どもの放課後の居場所としての利用ができないところもある。いろいろな施設を使う場合のハードルを下げてもらい、子どもの居場所をどこに作っていくかを考えてもらいたい。

7 知事のまとめ

- 地域活動は、活動への参加を強制することなく、活動に携わる人たちが、いかに自分たちの出来る範囲で「楽しんで」参加できるかが鍵になる。
- 仕事をリタイアした人が、地域活動にスムーズに入っていけるかが難しいところであるが、今日御参加いただいた皆さんのように、地域のためにひと肌脱いでくださる人がいることは心強くありがたい。
- 自分たちが住む地域のことを誇りに思って「ここを是非みんなに知ってもらいたい」という人もあれば、「ここはひどいところで何とかしてほしい」という人もある。自分たちの地域を好きである人が多いほど、その地域は魅力のある地域になる。皆さんがより良い活動ができ、皆さんの仲間がふえるよう、県も広報活動を後押ししたい。